

キヤノン株式会社

2021年第2四半期 決算説明会【主なQ&A要約】

- Q1. 東南アジアで感染が再拡大しているが、ベトナムやタイ、フィリピンなどの工場の稼働状況を教えて欲しい。**
- A1.** 2Qに影響を受けたのは、レーザープリンターとIJプリンターの生産拠点であるベトナムで、その次はマレーシアである。タイやフィリピンなどでは影響はほぼ出ていない。現時点では、一部他社からの部品の供給問題が出ているものの、全拠点通常稼働している。
- Q2. 生産が回復した後、価格競争が再燃するか。**
- A2.** ワクチン接種が普及し経済活動が正常に戻れば、以前の様な価格面での競争もある程度起こり得ると見ている。
- Q3. カメラは好調な業績推移が続いているが、市場そのものの方向性をどの様に分析しているか。来年以降の中期的な見通しを教えて欲しい。**
- A3.** EOS R5/R6が絶好調であるものの、カメラ市場が大きく回復するとは考えていない。従って、当社としては今後販売台数がどんどん増え、昔のような状況に戻ることは想定しておらず、映像を趣味としているハイアマやプロを対象とした高画質のカメラに専念することで、現在の販売水準を維持することを目標としている。
- Q4. 下期はカメラの売上が上期からあまり伸びない様だが、これは半導体の部品不足などの影響ととらえるべきか。**
- A4.** 半導体不足の影響がなければもっと売れるはずだが、カメラの販売台数が今後どんどん伸びることは想定しておらず、現在のシェアおよび市場規模を維持することに注力する。
- Q5. 今回大幅に上方修正したものの配当額は据え置きということだが、配当の考え方を教えて欲しい。**
- A5.** 資金の使途として、研究開発やM&Aなどの成長投資を最優先し、その次に配当などの株主還元を行うことを基本としているが、今年については借入金の返済を優先する予定である。会社の成長のために借入れをすることに全く躊躇はないが、無借金の方が自由に戦略が立てられると考えているからである。なお今年の配当性向は47%程度であり、低い水準ではないと考えているが、先々は業績が良くなればそれに応じて増配していきたい。

キヤノン株式会社

2021年第2四半期 決算説明会【主なQ&A要約】

Q6. ターゲット領域などM&Aの考え方を教えて欲しい。

A6. M&Aを行う上で、まずサステナビリティ、つまり持続性のある事業であること、次に市場規模がかなり大きいこと、そして当社の持つ技術、リソースと親和性があることの3つを大原則としている。この原則に合うものがあれば、積極的に検討する。技術の確立という面において、時間を買うという意味でM&Aを活用しながら新事業を展開することが現在の戦略の1つである。

Q7. カメラについて工場の稼働率が上がり採算が良くなっているのは、製造方法や生産体制の見直しがあったためか。

A7. 昨年は4月頃からコロナが本格的に拡大し、ほぼ生産停止の状態が続いた。今年は生産量も増えており、昨年との比較では工場の稼働率は大幅に改善している。

Q8. カメラの利益率が上がっているのは、RFレンズとR5/R6が売上を牽引しているためか。それとも稼働率の改善だけで説明がつくか。

A8. R5/R6の収益性が高いことに加え、生産の稼働率が上がっていることも利益率改善に寄与している。また上期は先進国を中心にワクチンの接種が進み、経済の再開が間近であることを受けた前倒し需要があり、値引きや販売促進費をあまり使わずに販売出来ていることも利益率を良くしている理由だと考えている。

Q9. R5/R6は来年発売から3年目に入るが、カメラの売上は2022年以降落ちてくると考えられるか。またはRFレンズの装着率が上がり、レンズ販売の伸びがカメラ本体の販売減少をカバーすると見ているか。

A9. カメラは常に次の新製品を出しているが、R5/R6は比較的長い期間に渡り売上を牽引することも考えられる。状況に応じて総合的に販売戦略を立てる。

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき。